

あかるいまち21

No.1170 2018年9月25日 組合員活動推課 082-532-1264

	9月累計	2018年度
組合員ふやし	67人	473人
出資金ふやし	378万円	4551万円
純増	▲184万円	460万円

生協強化月間キックオフ集会 パート2

キックオフ集会の後半は、地域包括ケア部から「地域包括ケア部の3つの役割」について(田中部長)、福島生協病院からは「組織建設推進委員会の取り組み」について(西田事務次長)、の報告の後、以下3つの支部より発言がありました。

中区南支部 「いきいき百歳体操の継続実施について」

毎回40名前後の参加者でにぎわっている中区南支部の百歳体操ですが、新聞報道で実施場所のマダムジョイが買収されることを知ります。

9月末までで閉店となる以外の情報もない中、百歳体操存続の危機から継続実施の確認ができるまでの支部の取り組みを報告されました。

どこに問い合わせをしたらいいのか、だれに相談したらいいのかなど、支部での話し合いが行われ、中区社協や江波包括支援センターの力も借りて買収先のマックスバリューの担当者と懇談が実現したそうです。新聞報道から懇談までわずか10日間。みんなが協力し合い知恵を出し合った成果だとの発言は感動的でした。

己斐上支部 「介護班の取り組み」

己斐上支部の介護班は、H28年4月に「介護制度はどう変わっていくのか」というテーマで地域包括支援センターの方に講演いただいた際、あまりにも複雑でわかりにくい介護制度とそれを取り巻く問題も数多くあることが分かり、もっと介護について勉強しようというところからの出発だったそうです。以降、さまざまな高齢者住宅や老人福祉施設などを訪問したり、福祉用具の学習会や高齢期うつ病について学習をされたりと、意欲的に取り組まれています。現在では班メンバー以外の方からの参加もあり、地域での広がりを感じながらいきいきとした班活動の様子がとてもよく伝わってきました。



佐伯支部 「お出かけ班の取り組み」

数年前から魅力ある支部を作ろうと模索を続けてきた佐伯支部。いろいろ話し合いをされながら、昨年末、何年かぶりの忘年会を実施したところ、たくさんの参加者で大いに盛り上がったそうです。これをきっかけに、次にまた何か企画しようとの声が自然に上がり、清水劇場を見に行こうとの企画が実現し、その後、「お出かけ班」結成へとつながっていきました。まさに、要求実現が次の要求へとつながった瞬間でした。今後は他支部との合同での企画も検討したいと遠藤支部長。お出かけ班は佐伯支部にとって何年ぶりかの班結成であり、今年の班づくり・班会開催月間の目標達成を決めた班でもあります。